

令和2年度 山形県立長井工業高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

教育目標 (目指す生徒像)	(1)「人間性の育成」 責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
	(2)「創造性の育成」 確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
	(3)「社会性の育成」 ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会に貢献できる人間の育成

本県基本目標：人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり
 本県教育のテーマ：つなぐ ～いのち、学び、地域～
 目指す人間像：「いのち」をつなぐ人 学びを生かす人 地域をつくる人
 広い視野と高い志を持って(全体を貫く基本姿勢)

【達成度】 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:まあまあ達成できた D:まだ達成できない E:全然達成できない

自 己 評 価							学校関係者評価	総 括
番号	重点目標	評価項目	具体的方策	評価基準	目標の達成状況、達成にむけた取組み状況と分析	達成度	成果と課題、次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等
1	社会を生き抜く 確かな学力の 育成	学習指導	① 研究授業を年2回の研究授業週間に全教科で実施する。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴う臨時休校により、授業内容を大幅に見直しシラバスを作り直したり、補充授業を計画したりするなどして学びの保証に努めた。研究授業は年1回に減らさざるを得なかったが、新学習指導要領の実施に向けて「教科横断的な学び」という新しいテーマを設け、各教科・科目で積極的な取り組みが見られた。授業評価のアンケートは予定どおり年2回実施した。全職員で丁寧に議論を重ね、「教育計画書」及び新教育課程1次案を策定・編成し、県に提出することができた。	B	「新しい生活様式」を踏まえた授業の進め方について職員間で話し合いを重ね、例年と同等の教育活動を行うことができた。一方、県で導入したG-Suiteの活用法検討、校務支援システムへの移行作業等を迅速に行い、教育活動の合理化を図る必要がある。各種アンケートの実施については、校内外を問わずさまざまな調査機会が増えてきている中で、内容を精選しながら確実な改善につながる働きかけをしていく。新教育課程については、より魅力ある学校になるよう次の段階に向けて詳細を検討していく。	・コロナ禍においても卒業生を含め、本校生の活躍が光っている。このコロナ禍により学校生活の中で、実習などの学習活動における制約や就職・進学への影響はあったのか。 ・コロナ禍においても、地元企業は長工生に非常に期待し、採用したいと思っている。生徒や保護者が就職希望先を選ぶ基準はあるのか。 ・生徒へのアンケート集計結果では、87%が本校に入学してよかったと感じている。また、就職内定率も96%と非常に高い数値でもとても素晴らしい。出席率も高く、進学希望者に対する面接指導等の強化を図らなければならない。進学希望者についても、従来の進学講習をさらに充実させ、外部模試や添削指導の導入を図りながら意欲を喚起し、実力をつけさせる方策が必要である。
			② 授業評価と学校生活アンケートを年2回実施し改善に生かす。					
			③ 「教育計画書」及び新教育課程1次案を策定・編成する。					
2	社会で自立できる基礎的な力 と実践力の育 成	生徒指導	① 「あいさつ運動」を継続実施し遅刻者を減少させる。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	毎朝の立証指導でマナー委員会と共にあいさつ運動を実施し、あいさつする習慣が定着しつつある。また、遅刻する生徒が大幅に減少している。全職員の協力の下、定期的に身だしなみ指導を行い、自発的に身だしなみを整える習慣づくりを行った。点検の回数を重ねることに改善指導を受ける生徒が減少している。全クラス出席率も向上している。とくに1年生の出席率が高く、継続してほしい。	B	今後とも、卒業後社会人として通用する常識や良識ある生徒を育てていかなければならない。そのためにあいさつや身だしなみ・マナーの指導を重視し、保護者の協力を得ながら継続的に指導して必要がある。また、SNSに関する校内におけるルールの確立が必要である。	
			② 身だしなみ点検・改善指導を年5回以上実施するとともに、学年・学科・授業等での指導を継続し、改善を要する生徒を減少させる。					
			③ 全クラス、出席率99%以上を目指す。					
		特別活動	④ 部活動、ものづくりコンテスト等の大会において、県ベスト8以上を目指す。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	ものづくりコンテスト旋盤作業部門において、1年生で初出場した生徒が県大会準優勝、柔道部・ソフトテニス部とともに地区新人大会男子団体3位となった。また、やまがた高校生ロボットコンテスト3位入賞、全国高等学校ビジネスアイデア甲子園にてグランプリ(第1位)を受賞した。生徒総会前に代議員会を2回開催した。議案審議において活発な意見が多かった。今年度は紙面回答で対応した。	C	地区総体が中止になり、今まで積み重ねてきた練習の成果を発揮することができなかった。今後新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら活動を継続していく。また、各部の年間計画表をもとに、大会実績だけでなく評価・激励しながら活動環境を整えていきたい。	
			⑤ 生徒会代議員会を年3回以上開催し、生徒の意識高揚と生徒会の活性化を図る。					
		進路指導	⑥ 進路講話・ガイダンスを各学年・各学科等で年2回以上実施する。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	コロナ禍の影響で就職試験の日程変更や学校行事の変更など、不透明な中で進路指導となったが各学年や各科目、全職員の全面的な協力を得て進めることができた。就職は地元企業を中心に順調に内定をいただくことができたが、県外企業については不採用となることもあった。進学については公募推薦、指定校推薦を中心に順調に合格を果たしたが、国公立大学、産業技術短期大学校では不合格もあった。公務員は国家公務員、地方公務員に合格しよく健闘した。1月末の進路内定率は95.5%である。(2月末の進路内定率97.7%)	C	コロナ禍でオンラインによる企業見学や試験となるケースがあり、生徒のスマートフォンや学校のPCで対応した。次年度以降もこの流れは続くと思われるため、校内の環境を整えていくことが急務である。また一部の業種を除き景気は後退局面にあることから、就職希望者に対する面接指導等の強化を図らなければならない。進学希望者についても、従来の進学講習をさらに充実させ、外部模試や添削指導の導入を図りながら意欲を喚起し、実力をつけさせる方策が必要である。	
			⑦ 進路指導部、学科、学年が連携した指導体制をつくる。					
			⑧ 就職希望者の年度内内定100%と進学希望者の第1志望合格を目指す。					
3	安全・安心で元 気な学校づくり	いじめ 防止	① 面談週間等を活用した生徒面談を年2回以上実施する。また、保護者面談やアンケートを定期的に実施する。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	いじめ防止基本方針・いじめ防止対策組織の設置に基づいて計画的・組織的に取り組んでいる。今年度のいじめの認知件数は1件であった。いじめ調査アンケートがしっかり機能し、組織的な対応で事実関係を明らかにしたうえで適切な指導がなされた。Q-U検査を2回実施し、7月にはQ-U検査に関する職員研修を行った。大変好評ですぐに個別に面談を行った。	B	今後とも、いじめに対する組織的な対応の必要性や、いじめ問題が起きにくい集団づくりについて研修を深め、いじめ防止に向けた組織の強化と対策の充実を図っていきたい。「いじめアンケート」は家に持ち帰らせて記入させ回収している。回収が面倒でも安心して書ける配慮を継続しつつ、アンケートにあがってこないいじめも見逃さないように、アンテナを高く磨いておくとともに、学科・学年を越えて全職員で生徒の指導に当たっていききたい。	
			② グループエンカウンター等いじめ防止のための取組みを推進する。また、いじめ認知力の向上、いじめ発生時の対応等に関する校内研修を実施する。					
			③ 「Q-U検査」及び「ネット被害防止スクールガード事業」等を活用しながら、学年・科を中心に全職員で情報を共有し、加害・被害発生を未然に防止する。					
		保健衛生 安全指導	④ 定期健康診断の受診勧告書を迅速に配付し、学年や保護者と連携しながら受診率を向上させる(歯科・低視力者の受診率40%以上)。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	新型コロナウイルス感染症の影響で定期健康診断の実施時期が大幅に遅れ治療期間も短くなった。歯科の受診率13.8%、低視力の受診率18.8%と受診率の向上には繋がらなかった。春と秋の高校生マナーアップ運動では、PTA役員の方々や連携した校門で朝の街頭指導を実施し、あいさつ運動や交通安全指導を行った。7月に外部講師による薬物乱用防止講話・情報モラル講話を実施し、全校生徒対象に「やまがた110ネットワーク」の登録を行った。	B	新型コロナウイルス感染症を警戒し、受診することを控えた生徒が多かったのではないと思う。未受診者には再度受診勧告書を配布して受診を呼びかけるようにする。また、できるだけ早く受診勧告書を配布する。 山形県警によるメール配信のため、不審者情報や防災情報など、安全安心に情報を受けることができるので有効活用していきたい。	
			⑤ 地域やPTAと連携し、街頭での交通指導と通学路の安全点検を年2回以上実施する。					
			⑥ 薬物乱用防止、SNSの加害・被害防止、交通安全に関する講話、講習等を実施する。					
4	地域に貢献し 信頼される学 校づくり	地域連携 情報公開	① 全校ボランティア活動や、PTA・地域と連携した活動を年2回以上実施する。生徒会や工作部等によるボランティア活動を各学期1回以上実施する。	教職員による 評価の平均が C以上になる こと。	新型コロナウイルス感染拡大防止策として、密にならないよう学年ごとにボランティア活動を実施した。また活動場所も増やして生徒を分散させた。臨時休校の影響もあり、学校案内パンフレットの作成時期を早められなかった。ホームページについては、生徒や保護者、関係者に向けた案内や連絡の際に、効果的に更新することができた。各科と学校全体で実施している課題研究発表会に計4回、山形県立産業技術短期大学校より教員をお招きし、発表内容に対して講評をいただき今後の研究活動の充実につなげた。	C	今後とも粘り強く本校の魅力を地域の中学生・保護者に伝えていきたい。 学校案内パンフレットについて、内容や担当を見直し、合理化を図る。ホームページについても、内容を精選しながら更新頻度を上げ、より効果的に情報発信する。来賓の方々から発表者に対して多くの質問やアドバイスをいただくことができた。日程的に余裕があると更に多くのご指導をいただけたらと思う。	
			② 学校案内パンフレットの作成時期を早めるとともに、ホームページを毎月更新する。					
			③ 連携・交流校(産技短・芸工大)との連携・交流を年2回以上実施する。					

学校関係者評価	総 括
意見・要望・評価等	<p>今年度も昨年度同様、地域有識者・企業経営者・大学関係者・行政関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会(学校評議員会と同一メンバー)を設置した。それぞれ異なる立場から多様な視点で、的確かつ温かいご意見やご助言をいただくことができた。</p> <p>今年度はコロナ禍にもかかわらず、生徒の各種大会やコンテストでの活躍や、就職内定率の高さについてたいへんよく評価していただき、「長工生よ、地域を潤す源流となれ!」のスローガンに象徴される本校生への期待を寄せたい。今後も、本校の特徴であるものづくり、資格取得、部活動等について一層の充実発展させ、生徒一人ひとりが自ら目標を設定し、その実現を目指し主体的な取り組みになるようにしていきたい。</p> <p>地域との関わりについて、学校の活動を地域に発信することで理解と協力を求め、また、学校を取り巻く社会や地域の実態を視野に入れながら、主体的に地域と向き合い関わり合っていくために求められる資質や能力を育み、地域を愛し地域に貢献できる人材を育成していかなければならない。</p> <p>今回いただいたご意見やご助言を参考に、本校の教育目標に掲げられている「人間性」「創造性」「社会性」が十分に身につくよう、今後の学校運営の改善を図っていききたい。</p>